

第2回「洞爺高校の今後を考える」住民対話集会【会議録】

と き：平成23年10月20日
 ところ：洞 爺 湖 町 役 場
 開 会：午後 7 時 0 0 分
 閉 会：午後 8 時 2 5 分
 参加者：11名

<p>【町より挨拶】</p>	<p>洞爺高校は昭和27年に伊達校の分校として開設をしました。その後農業科、家庭科、生活ビジネス科へ転科し現在に至っています。</p> <p>これまで村立の高校として地域との交流をしながら、ボランティアなどの活動を通して地域一体となって着々と成果を上げてまいりました。</p> <p>しかし近年の生徒数の減少、そして大きな問題として、校舎の老朽化があります。</p> <p>私ども庁内の行財政改革本部の中でも、一つのテーマとして、いろいろと議論を重ねてきたわけでございます。</p> <p>その中で教育委員会としましてもこのような対話集会を開きながら、皆さんと一緒にご意見を伺いながら老朽化した校舎の問題を考え、ある程度の方向性を判断する時期に来ていると思っています。</p> <p>この後、経過等について説明をさせていただき、皆さんの忌憚ない意見をお聞きしていろいろと議論してまいりたいと考えております。</p> <p>どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>【町・教育委員会 出席者紹介】</p>	<p>教育委員長及び委員、教育長、高校長、事務職員紹介</p>
<p>【高校沿革、現状について 管理課長より説明】</p>	<p>(説明詳細は省略)</p> <p>高校のことを考えることになった経緯</p> <p>その後高校のあゆみ・沿革配布資料に沿って説明する。【資料別添】</p>
<p>【教育長より発言】</p>	<p>(発言詳細は省略)</p> <p>教育委員会として、課題として3点。</p> <p>町立高校としての使命の明確化及び将来の学校のあり方について</p> <p>学校施設の老朽化の対策について</p> <p>町の財政的な問題について</p>
<p>【質疑】 (高砂地区・男性)</p>	<p>新聞報道を見ていて思ったことについて6項目ほど質問をさせて欲しい。</p> <p>1点目は大半の方が学校の存続を望んでいると聞いているが、地元の人たちなのか、他市町の人たちなのか教えて欲しい。私は存続を望まないわけではありません。</p> <p>2点目は、入学者は地元が多いのか。他市町の人が多いのか。</p> <p>3点目は、今後地元の中学生の卒業見込み数がどれくらいなのか。</p>

	<p>4点目は、学校を建替えるとした場合、国、道からの補助金はあるのか。</p> <p>5点目は、報道の中には健全化計画と載っているが学校建設とどのように関係してくるのか。</p> <p>6点目は、寮が整備されているが、この寮がいつ出来たものか。建設費はいくらだったのか。</p>
<p>【町教委】</p>	<p>1点目についてですが、存続に対する住民の皆さんのご意見としては、1回目の対話集会では、存続を望む状況は半々だったと私たちは認識しています。財政負担について町全体を考えて検討すべき。或いは、高校の維持経費として年間3千万円くらいかかっている経費の一部を使って、高校の存続を見直した段階で、違う学校への通学費に対しての助成を考えた方が良いのではないかななどの意見もいただいている。そのようなことを考えると皆さんの意見は半々だと考えています。</p> <p>2点目の学生の状況ですが、資料の1ページに生徒保護者地域別一覧がございます。その平成23年度の現状では全部で64名となっております。その内洞爺湖町地元の生徒数は18名です。西胆振地区で22名、東胆振地区で5名、石狩外で19名でございます。</p> <p>3点目の地元中学生の今後の見込みでございますが、生徒数は段々減っております。現在の全町での中学3年生は81名、2年生は72名、1年生は70名となっております。小学校では、更に減っていくと思われます。一時小学3年生が80名ぐらいで多くなりますが減少傾向にあると思われます</p> <p>4点目の改築時の補助制度については、基本的に高校の場合は国・道の補助制度はございません。町単独費で改築することになります。正確な試算ではないですが、仮に体育館等も含めて全面的な改築となれば10億円程度の費用が必要になると思われます。その場合、建築費の殆どの金額を町は借入れをして建てることになり、何十年かけて償還をしていくことになると思われます。</p> <p>5点目の健全化計画との関係性については、洞爺湖町では平成21年度から財政健全化計画をたてて進めておりますが、この内容は出来るだけ経費を切詰めることと、皆さまにも経費にかかる負担をお願いするというものでございます。</p> <p>既に、入浴料、保育料については値上げさせていただき、社会教育施設や体育館などについては新たに負担をして頂いている状況です。</p> <p>一方、歳出は、議員の報酬を削減させていただいておりますし、職員の給与についても独自に削減するなど、健全化団体から脱却に向けて進めている状況でございます。</p> <p>ここで新たに大きな経費が出てきて、その支出に合わせて大きな借入れが出てきた場合に、いろいろな指標が悪い方向に向いてしまう状況になります。そのような関係性がございます。</p> <p>6点目の寮については、洞青寮と第2寮の二つの寮がございます。</p> <p>洞青寮は平成8年に建設されております。合併は平成18年3月でございますので、旧洞爺村の時代に建設されております。大体5億円くらいの費用がかかっていたと聞いております。その費用の内ほとんどを借り入れて償還している状況で</p>

	<p>す。しかし、先ほど説明させていただきましたが、平成21年に2億円を一括で繰上償還をしております。</p>
<p>【意見及び質問】 (高砂地区・男性)</p>	<p>洞爺高校の生徒の活躍については説明の中で解りました。その子たちの出身中学校の先生たちが見たらとてもびっくりすると思うんです。中学校時代からすごく変わった。それは生徒の協力もあるし、当然、先生方の努力もあると思います。そこのところを校長先生からお聞きしたい。</p> <p>生徒の町での行事や動きなども合わせて教えて欲しい。</p>
<p>【高校長】</p>	<p>町外からきている生徒たちの中には、中学校時代に登校日数の非常に少ない生徒がきているのも現実でございます。また、特別の支援が必要と思われる生徒が入学している状況もございます。そういう生徒を一人ずつ、学習支援にしても生活支援につきましても、細やかな支援を繰返すことによって中学校の時には学校に行かなかった生徒たちが毎日寮から学校に通ってきます。或いは学習能力の低い生徒であっても個別の支援や、家庭科を通した学習の中で技術を身につけるなど学習活動を続けております。</p> <p>先生方の関わりとしましては、勤務時間を過ぎても調理室や被服室で生徒の技術の習得に関わる練習に本当に親身になって指導しております。</p> <p>ひとつの例として、札幌のPTA会議の折に1人の母親から「家の子どもはとっても変わりました。中学校の時はほとんど引きこもりで、学校に行くことのない子でした。その子が、毎週家に帰ってくると学校での出来事や今やっている勉強の内容、友達の様子を話してくれる。本当に親に対しても口を開かなかった子がとてもお喋りに、いろいろな様子を聞かせてくれるようになった。」と。</p> <p>また、修学旅行で宿泊した旅館では、生徒たちが使用した後のお風呂を片付けに行ったところ非常に驚いたと言われました。「風呂桶や椅子、シャンプーなどの小物が使った後なのにとってもきれいに整頓されていた。」と。日頃の寮や学校の生活の中での結果として、一例をあげさせていただきました。</p> <p>地域の行事などの関わりにつきましては、環境美化として地域の清掃活動。今年度から取組みを始めて年5回実施いたしました。洞高カフェ、飲み物とともに地域の協力により特産品を使って生徒が作ったスイーツの提供や同時に接客などを学ぶ試みを通して地域の皆さんとのふれ合いを大切にしております。</p>
<p>【質問】 (高砂地区・男性)</p>	<p>財政負担について、平成22年度では3千万円の町負担となっているが村営の時はどれくらいの負担だったのか教えて欲しい。</p>
<p>【町教委】</p>	<p>手元に正確な資料を持っておりませんが、運営等経費についてはほぼ同じくらいで、大きく変わるのは、先ほど説明させていただいた寄宿舍の償還金の金額が年額3千2百万円を支払っていたしましたので、約6千万円程度の支出をしていたと思われる。</p>
<p>【意見】 (高砂地区・男性)</p>	<p>私は3町村の合併協議会の時の話合いに、関心があってよく行って話しを聞いていた。</p> <p>洞爺高校の項目になったときに賛成意見、反対意見、提案等もなんの論議もなく存続賛成で終わった。極めてすんなり決っていた。</p>

	<p>その時だってそういう資質は判っていたと思う。でも、村はそれだけの支出をしても次代の子供を育てていくつもりで運営していたと思う。</p> <p>もしかしたら、賛成も反対も全く意見が無かった裏には、その時から生徒数が少なくなったら廃止すればいいという気持ちがあったのかと思えて仕方が無い。</p> <p>財政的なことばかり出ていて、それでどうしようかと提案されるのは本当は止めたいと思っているからだと思える。それはおかしい。教育はお金がかかるものだ。教育は投資だ。町営高校を運営することを決めた時から判っていたことだと思う。財政問題を理由に廃止するのは反対だ。</p> <p>生徒たちのすばらしい成長と変化について聞いたが、これはお金で解決する問題ではない。これが教育だと思う。教育は投資だと思う。</p> <p>もし、洞爺高校が無かったらあの生徒たちは何処で変えられたのでしょうか。</p> <p>生徒は地元だけではなく道内いろいろなところから来ている。その生徒たちはどこで成長してけるのか。と考えると洞爺高校の力はほんとにすごいものだ。</p> <p>旧洞爺村時代の生徒募集はすごかったと思う。村をあげて募集していた。洞爺湖町になっての募集は昔ほどやっていないと思っている。どのように募集しているのか教えて欲しい。</p> <p>私は存続させて欲しいと思っている。</p>
<p>【教育委員長】</p>	<p>合併時のお話については、私も当時の話合いの中に関わっておりました。協議会ではお話のとおり実にすんなり容認されました。その時の論調というのは今お話されたとおりであります。中学校時代に居所の無かった子ども。部活をするにも仲間に入れない、或いは学習、ボランティア活動、生徒会活動などで仲間に入れなかったそういう子どもたちの受け皿というとその子どもたちに失礼ですけれども、そういう環境として存続していたところが多分でございます。</p> <p>それは、親御さんの中にも洞爺高校で学習し、卒業して社会人として頑張っている方がいる。だから自分の子供も洞爺高校に入れたいという方も沢山おられました。そういうことを合併協議会で申し上げ、それがすんなり認められて洞爺高校が合併後も存続している状況でございます。</p> <p>先ほど課長からも説明のありましたとおり、次第に洞爺高校へ向いてくる生徒が少なくなってきた、これは学校や我々が手をこまねいていたわけではありませぬ。学校側は、札幌、室蘭、苫小牧で各学校を訪問して生徒募集を進めております。それにもかかわらず生徒数が減ってきている、教育委員としましてその理由について検討いたしました。</p> <p>その一つは少子化傾向にあること。もう一つはその少子化傾向にある中で札幌の私学、公立においてもそういう生徒も受入れる学校が増えている。特に、大通高校が新しく作られました。この高校はそういう子どもたちにも手を差しのべて非常に手厚く行っている。</p> <p>そういう中で洞爺高校の方に向いてくる生徒が少なくなっている事実はあると考えています。</p> <p>洞爺高校は非常に努力を重ねてまいりまして子どもたちにとって魅力のある学校づくりを進めています。この点に関しても非常に感謝を申し上げます。</p>

	<p>学校側はそういう学校も増えている中、熱心に生徒募集に取り組んでいただいております。虻田中学校へ行った際も、掲示板に洞爺高校の生徒募集のポスターがしっかりと張られておりました。</p> <p>努力を続けておりますが、こういう生徒数の状況であり、また、全道的な高校のあり様の移り変わりがあります。</p> <p>もう一点は、教育というのは財政的な問題だけで語るべきではないということ。全くそのように私も思います。</p> <p>私たちは、高校に他市町村から来てくれる子どもたちを大事にしていますが、それと同時に地元の子どもたちをどうするのかを考えます。これは高校だけではなく、義務教育についてもそうであります。</p> <p>教育委員会から出された全国学力テストの結果はご覧頂いていると思いますが、大変残念な結果でございます。全道平均が全国で下から2番目となっており、学校により差はありますが、洞爺湖町はその全道平均をも下回るかもしれない状況にあります。我々はこれを何とか向上させなければならないと考えております。財政厳しい中、そういうところに手厚く教育予算を振向けて、小中学生の地元の子供たち、地元の納税者の期待に応える教育を進めていく。このことを大事にして参りたいと考えているところでございます。高校の教育については財政的な問題だけではなく、教育は人を育てる。人を育てるといのは地元の間人を育てていく、そういう考えを大事にして教育行政に望んでおります。これらもこの判断の一環とお考えいただきたいと思っております。</p>
<p>【意見】 (高砂地区・男性)</p>	<p>教育は人を育てる。そのとおりだと思います。それが地元の子どもだけでなくてもいいと思います。それが高校教育の良いところだと思います。</p>
<p>【教育委員長】</p>	<p>今のご意見に反対する気持ちはありません。</p> <p>ですけれども、両方に手を広げていけるだけの余裕があるのか。どちらを優先するのかという難しい判断を迫られております。</p> <p>地元の義務教育学校に通っている子どもたちと洞爺高校に来る他市町の子どもたちを差別して考えようと思っておりますが、今はその部分で厳しい判断をせざる得ない状況に我々はあるのではないだろうか。そういう思いがあり、先ほどの発言をしたわけでございます。</p>
<p>【町】</p>	<p>本日は短い時間ではありましたが、いろんなご意見を頂いたと思っております。</p> <p>また、9月1日にも洞爺総合センターでいろいろなご意見を頂ました。</p> <p>その中で私が感じましたのは、昭和27年に村立高校を設立した。おそらくあの当時は何かと交通の便が悪い中、村民総意でなんとか地元の子どもたちに高校教育を受けさせたいと熱い気持ちを持って設立されたと思っております。その後も地域の高校として住民自ら育て上げてきた学校です。</p> <p>さらに、先生方も献身的な教育をほどこしてきた。まさに地域が育てた学校でございます。</p>

	<p>ただ、教育委員長が申しあげたとおり事情が変わってきた中で、どうしても選択となってしまった場合は私も義務教育の方にもっと力を入れて予算をつかうべきなのかなと考えております。</p> <p>大変なのは生徒数の減少だけではなく、学校の建設費用に関しましては、町といたしましてはかなり大きな課題であり負担となってくると思います。</p> <p>9月1日、そして今日、明日と行われる対話集会のご意見をまとめまして、今後、教育委員会内部でも検討していただき、洞爺湖町としましても設置者の立場で充分内部協議いたしまして、一定の方向を示しまして、改めて皆さまにご説明して、ご理解をしていただき、進めてまいりたいと考えております。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>
【閉会】	